

フィリア・レター

～真の友人からの手紙～



発行：中部ろうさい病院

〒455-8530

名古屋市港区港明 1-10-6

TEL 052-652-5511

FAX 052-653-3533

<http://www.chubuh.johas.go.jp/>



院長就任のご挨拶

院長 佐藤 啓二

4月1日より病院長に就任しました。愛知医科大学では、1997年より2015年まで整形外科講座教授を務め、骨軟部腫瘍の診断治療を専門としておりました。その間2002年より3年間病院長、2006年から8年間新病院建設委員会・委員長及び2014年より6年間学長を務めてきました。病院の経営や組織の運営に関する経験を生かして、中部ろうさい病院が真に皆様のお役にたてる病院として発展するよう努力を重ねていく所存です。

3月12日に当院の入院患者1名が新型コロナウイルス(COVID-19)と診断され、既に退院された1名の濃厚接触者も感染していたことが報道されました。国立感染症研究所の専門家による指導を得て、緊急対応として外来・入院・救急患者受入れ等の制限が行われ、関連部署の消毒も実施されました。

その後、濃厚接触者及び院内関係者については、新型コロナウイルスのPCR検査を行い

ましたが、すべて陰性と判明し、その後当院の入院患者さん・通院患者さん・職員等において新規発生を認めず、3月23日より外来診療、入院患者さんの受け入れ、救急患者さんの診療を順次再開し、病院機能は復旧しております。

院内においては、職員及び関係者ともマスク着用、頻回の手指洗浄およびアルコール塗布、重要箇所の消毒を励行しており、しっかりと新型コロナウイルス対策を講じておりますので、ご安心いただければと思います。

国難というより地球規模の災難である新型コロナウイルスに対して、十分な設備や機能を有する地域中核病院はしっかりと役割を果たしていく必要があります。地域の皆様のご支援を得て、地域医療を支えると共に、働く人々の職業生活を医療の面からサポートするという労災病院の理念を具現化すべく、職員一同力を合わせて頑張る所存です。どうか宜しくお願い申し上げます。

今月号のお知らせ

①院長就任のご挨拶

..... 院長 佐藤 啓二

②副院長就任のご挨拶

..... 副院長 岡 義春

③「コロナで自粛！でもココロは萎縮しないように！」

..... 心療内科部長 芦原 睦

④院内行事開催記録

..... 病院の理念・当院の基本方針、編集後記



医師



副院長就任のご挨拶

副院長 岡 義春

私は産業医科大学を昭和59年に卒業しました。昭和61年から広島の浜脇整形外科病院勤務、昭和62年から九州労災病院勤務、昭和63年から熊本労災病院勤務、平成1年から兵庫県の信原病院勤務、平成2年から中部ろうさい病院勤務、平成4年から日立製作所土浦診療健診センター勤務、平成6年から再び中部ろうさい病院勤務になり現在に至っています。以前、かかわった患者さんに久しぶりにお会いする度に、永く当院に努めていることを自覚しています。

当院の整形外科は年間約1000例の手術を行っております。その内訳は脊椎疾患500例、人工関節を中心に関節疾患200例、骨折を中心に一般整形疾患300例でございます。

整形外科の外来受付時間は午前8時15分から午前11時までのため、受付終了時間が他の診療科より30分、短くなっています。大変、御迷惑をおかけいたしますが、少ないマンパワーの中、手術や検査を効率よく行うための、苦渋の選択でございます。

病気には完治する病気と、現代の医学では完治が難しい病気があります。御自分で治らないと思込まないで、早期のうちに診察を受けていただきたいと思います。整形外科医師が知恵を出し合い、正しい情報をお伝えし、各々の患者様に合った治療を行うことが大切と心がけています。病気による人生や日常生活の損失をできるだけ抑えることが医療の目的と考えています。

高齢化社会において、整形外科の需要は今後も増加していくと考えられます。私が医師になった当時は大腿骨近位部骨折の患者さんの平均年齢は70歳代でしたが、今は80歳代、90歳代の方が主で、患者さんの数も増加しています。高齢の患者さんの痛みを取り除き、以前の日常生活レベルまで回復していただくことが治療の目標ですが、当院の医療スタッフだけではなく、近隣の医療にかかわる皆様との連携、協力が欠かせないと考えています。

今後とも皆様の御支援をお願い申し上げます。

医師

「コロナで自粛！でもココロは萎縮しないように！」

心療内科部長 芦原 睦



この原稿を書いている4月20日は、コロナウイルスの緊急事態宣言が全国に出されているさなかです。三つの「密」、密閉、密集、密接を避けるようにと繰り返しマスコミは報じています。しかし、外来診療では、空気清浄機を稼働させてはいますが、密閉、密接はできません。

日本赤十字の文献によると、感染症には3段階があると言われています。

第1の感染症

ウイルスによる「疾病」そのもの…生物学的感染症

第2の感染症

見えないこと、治療法が確立されていないことへの「不安や恐れ」…心理的感染症

第3の感染症

不安や恐怖が「嫌悪・差別・偏見」を生む…社会的感染症
以上の3つです。

心療内科では、人間を、生物学的に、心理学的に、社会学的にとらえて治療をはじめます。

今回の三つの感染症とあまりに立場が類似しているので驚いた次第です。

さて、「自粛疲れ」とも言われていますが、このような社会的常態が続くと、本来の私たちのココロも徐々に萎縮していきそうです。それではどうすればいいのでしょうか？

まず第1の疾病については、いつかは収束する、治療法もできるということを信じましょう。人類は天然痘を撲滅させ、結核をはじめとする多くの感染症と戦ってきました。

まさに「明けぬ夜はない！」「やまない雨はない！」という思いで前向きに考えるしかないと思うのです。

第2の不安や恐れですが、医師歴40年の心療内科専門医の私ですら、コロナに対する不安や恐れが拭い去れません。まして医療者でない一般の方の不安や恐怖は当然のことで毎日、「新型コロナウイルスが…」で始まるニコ

ースを見聞きしている
と不安や恐怖がかきたてられるのは無理もありません。だからと言ってマスコミを完全に遮断するのも、賢明とは言えません。三つの「密」を避け、理性的な行動をとる必要があります。

第3の「嫌悪・差別・偏見」に関してですが、当院で患者さん2名のコロナウイルス感染症がわかったときに、職員が託児所や美容院を拒否されたという悲しい話を聞きました。

当院に無症状のコロナ感染者がウイルスを持ち込んだという可能性は否定できませんが、その後、同室者、医師、看護師と70数名はPCR検査陰性でした。

感染症対策チームの素晴らしい働きで、院内感染を食い止めたわけですが、マスコミはそこを報じてはくれません。

中部ろうさい病院の建物に一步入ると感染するというような極端な思い込みの患者さんにも遭遇しました。大人として、社会人として冷静に判断して、差別や偏見を持たないようにしたいものですね。

結局ココロを萎縮させないためには、どうすることがいいのでしょうか。

宴会したり、旅行したりできないわけですから、

1. 何か勉強を始める 英会話などはいかがでしょうか？ほかの言語でもいいですよ。
2. お笑い番組を見て とにかく笑う
3. 自宅でできる趣味に没頭する 読書、楽器、絵画、ゲーム、SNSなど

元来、インドア派には、楽なことかもしれません。しかしアウトドア派にはつらいですね。私は、英会話もお笑い(大好き!)も読書もしています。しかし、趣味の温泉や旅行が制限されて不自由さを感じています。でもいつかはこの事態は必ず終わります！

それを確信しつつ、明るく前向きに生活していきたいものです。

皆さん、夜明けは近い！頑張りましょう！！

院内行事開催記録

★看護週間のイベントを開催しました★

5月12日はナイチンゲールの誕生日にちなみ「看護の日」と制定されています。今年はナイチンゲール生誕200年でした。5月10から16日までが看護週間とされ当院でも活動を実施しました。

今年は新型コロナウイルス感染症の影響があり例年より規模を縮小し看護の様子の写真展や入院中の患者様にメッセージカードでメッセージを伝えるイベントを開催しました。看護週間にNursing, NowキャンペーンPR大使を務めるナースキティのTシャツを着用しPRしました。患者様からは「癒された」などのお言葉をいただきました。

今後も、皆さんの楽しめるようなイベントを開催してまいりますのでよろしくお願い致します。



★港楽学童保育所の児童から医療従事者への

応援メッセージをいただきました★

5月26日に港楽学童保育所の児童から、新型コロナウイルス感染症患者を受け入れ、医療現場で日々奮闘する当院職員に向けて、心のこもった応援メッセージをいただきました。

手作りの寄せ書きと「ろうさい病院のみなさまへ コロナにまけるな がんばってください」と刺繍された、大きなマスクをいただき、佐藤院長とともに記念撮影を行いました。

私どもも、地域のみなさまからの支援を糧に、新型コロナウイルス感染症の収束に向け、これからも医療を提供して参ります。メッセージは、当院正面玄関、ホスピタルラウンジ前に展示しておりますので、お立ち寄りの際はぜひご覧ください。



当院の理念

納得、安心、そして未来へ

当院の基本方針

- ・医療の質の向上と安全管理の徹底
- ・生命の尊厳の尊重と患者さん中心の医療
- ・人間性豊かな医療人の育成と倫理的医療の遂行
- ・地域社会との密な連携と信頼される病院の構築
- ・災害・救急医療への積極的な貢献と勤労者に相応しい高度医療の提供

～ 編集後記 ～

今回は、4月より佐藤啓二院長を迎え、岡義春副院長と共に、就任挨拶を掲載させていただきました。

さて、新型コロナウイルス感染症が拡大する中で、当院でも診療体制の変化や、面会制限などの影響がありました。自粛中はウイルスそのものだけでなく、様々なストレスと向き合われていることと思います。本号では芦原心療内科部長による、自粛中のココロを萎縮させない方法についての記事も掲載させていただきました。今後も感染拡大防止の対策を講じ、地域の皆様に安心していただける医療の提供に努めてまいります。(K・M)